

北海道東部某都市及近接農村學齡兒童ノ 結核ニ就テ

北海道廳立帶廣健康相談所

醫學士 岡 田 通 磨

(10月10日受領)

緒 言

昭和 13 年 6 月以降北海道東部帶廣市及近接農村ノ小學校第 6 學年兒童ノ結核感染ニ關スル調査ノ機會ヲ得タ、此ノ地方ハ廣大ナル十勝平野ヲ控ヘ最近 2、30 年間ニ農村開拓ノ進歩ト交通

ノ發達ニヨリ急速ニ人口ノ増加ヲ來シタ。先住民族タル「アイヌ」人モ可ナリ在住シ、和人トノ雜婚モ僅ニ認メラレル。カ、ル情勢下ニアル地域ノ結核浸襲ノ觀察ハ一顧ノ價値アリト信ズル。

調査資料及ビ方法

調査資料ハ帶廣市内 3 小學校第 6 學年兒童 811 名及ビ近接農村 5 小學校第 6 學年兒童 589 名ニシテ、是等ノ兒童ハすべて所謂健康兒童トシテ日通學シテキルモノデアル。先ヅ此ノ全部ニ對シテマントー氏「ツベルクリン」皮内反應ヲ行ツタ、「ツベルクリン」ハ傳研製舊「ツベルクリン」ヲ用ヒ、ソノ 2000 倍 0.1cc ヲ前膊、屈側皮

内ニ注射シ、48 時間後ニ検査ヲナシ發赤ノ徑 5 mm 以上ヲ陽性トシタ。必要アリト思ハル、モノハ 100 倍ニテ再檢シタ。是等陽性兒童全部ニ對シテ聽診、打診ヲ行ヒソノ大部分(都市ハ全部)ニ對シ「レントゲン」透視及寫眞撮影ヲ行ツタ、赤血球沈降反應ヲモ併セテ行ツタ。

兒童ノ結核感染率

市内 3 校及ビ近接農村校ニツイテ、學校別ニ結核感染率ヲ見ルト第 1 表ノ如シ。

之ニヨツテ見ルニ市内學校ノ結核感染率ハ 29.3%ニシテ、近接農村學童 25.6% ヨリ少シク高イ。之ヲ昭和 10 年金井等⁽¹⁾札幌市内所謂健康學童 558 名ニ於ケル 25.3%ニ比較スルニ帶廣

市内學童ニ於テハ稍、高率ニシテ、近接農村學童ニテハ略々等シイ。

之ヲ諸家ノ報告ト比較スルニ昭和 4 年有馬教授等⁽²⁾ノ札幌ニ於ケル 42.0%、小田教授等⁽³⁾ノ臺北ニ於ケル 37.7%、清水ノ函館ニ於ケル 47.5% ヨリモ遙ニ低率ニシテ、Arufinsen⁽⁴⁾ノ Tro-

第 1 表 市内兒童結核感染率

性 校 別	男		兒		女		兒 合		計	
	人員	陽 性	率	人員	(+)	率	人員	(+)	率	
O. B. 校	187	57	30.4%	189	57	30.1%	376	114	30.3%	
K. S. 校	125	46	36.8	157	53	33.7	282	99	35.1	
M. S. 校	69	12	17.3	84	13	15.4	153	25	16.3	
計	381	115	30.1	430	123	28.6	811	238	29.3	

第 2 表 近接農村兒童結核感染率

校別	男 兒			女 兒			合 計		
	人 員	(+)	率	人 員	(+)	率	人 員	(+)	率
M. R. 校	105	28	26.6	108	30	27.7	213	58	27.2%
M. T. 校	52	13	25	43	13	30.2	95	26	27.3
O. F. 校	53	12	22.6	83	21	25.3	136	33	24.2
P. B. 校	64	13	20.3	49	11	22.4	113	24	21.2
F. K. 校	15	6	40.0	17	4	23.5	32	10	31.2
計	289	72	24.9	300	79	26.3	589	151	25.6

ndheim ニ於ケル 27.7%、Lucksch⁽⁵⁾ ノ Prag ニ於ケル 27.6%、高橋⁽⁶⁾等 ノ名古屋ニ於ケル 26.5%ニ近イノdeal、市内 3 校別ニ見ルト興味アル事實ガ分ル、即チ市ノ中央部ニアリ、商業者ノ子弟ヲ大部分トスル O. B. 校ハ 30.3%、市ノ東部ニアリ労働階級ヲ大部分トスル K. S. 校ハ 35.1%ニシテ最高ク、市ノ南部ニアリ此

ノ 4、5 年前住宅地トシテ發展シ、農業者ヲ主トスル M. S. 校ハ 16.3%ニシテ最低deal、之ヲ金井等ノ札幌ニ於ケル區域別結核感染率ト比較スルニ大約一致シテキル、所謂結核蔓延ノ一原因ガ、ソノ生活環境ニアルトイフ事實ハ動カスコトハ出來ナイ。

「レントゲン」検査ニヨル結核病變ノ検索

マントー氏反應陽性者市内學童 238 名、農村學童 151 名「レントゲン」検査(透視及撮影)ヲ行ヒ結核病變ヲ検索シタ。

第 3 表ニ於ケル如ク初感染ハ市内學童 38.2%ニシテ農村學童ノ 37.7%ヨリ少シク高ク、再感染ニ於テモ市内學童 2.1%ニ對シ農村學童ハ 0.6%deal、肋膜炎ハ前者ハ 2.1%、後者ハ 1.9%deal、之ヲ金井等ノ札幌市内學童ニ於ケル初感染 37.1%、再感染 4.4%、肋膜炎 2.3%ニ

比較スルニ初感染ニ於テハ大差ナク、再感染ニテハ 1/3、肋膜炎ハ略々等シイ、清水ノ函館市内學童ニ於ケル初感染 57.7%、再感染 4.1%ニ對シ遙カニ低イ。

以上ノ内治療ヲ要スト認メラレル新鮮初感染、肺門腺腫脹、肺門周圍浸潤、滲出型結核ノ兒童市内學童 24 名、農村學童 23 名ニ對シ通學ヲ禁止シ、各自宅ニ於テ靜養スルコトトシ、榮養ノ指導ヲナシ、爾後屢々相談所ヲ訪問セシメ、經

第 3 表 「レントゲン」検査成績

「レントゲン」所見	市 内 兒 童		計	率	農 村 兒 童		計	率
	男	女			男	女		
初 感 染	陳舊初感染並ニ肺門腺灰化	39	33	72	12	23	35	37.7%
	肺門腺腫脹	6	13	19	10	10	20	
	新鮮初感染	0	0	0	1	1	2	
再 感 染	肺門周圍浸潤	0	1	1	0	0	0	0.6%
	滲 出 型	0	4	4	0	1	1	
	癒着性肋膜炎	3	2	5	1	2	3	
所見ナキモノ	67	70	137	57.6%	48	42	90	59.8%
「ツ」陽性者計	115	123	238	100%	72	79	151	100%

過ノ觀察ヲ行ツテキル。更ニ家族ノ受診ヲ勸メ、感染源ノ發見ニツトメテキルガ是ノ半数以上ニ於テソノ家族、近親者ニ結核性疾患者ア

ルコトハ今後結核豫防對策ヲ立ツル上ニ於テ考慮スベキコトデアリ、識者ノ注意ヲ喚起セントスルモノデアル。

總 括

昭和 13 年 6 月以降 4 ヶ月ニ互リ帯廣市内學童 811 名及近接農村學童 589 名ニツキ結核檢診ヲ行ツタ。結核感染率市内學童 29.3%、農村學童 25.6%デアツタ。

市内 3 校別ニ見ルト、勞働階級ヲ主トスル K. S. 校最モ高ク 35.1%、商業者ヲ主トスル O. B. 校 30.3%、農業者ヲ主トスル M. S. 校最モ少ク 16.8%デアル。

「レントゲン」検査ニヨル結核病變ノ檢索ニ於テ市内學童ニテハ初感染 38.2%、再感染 2.1%、

肋膜炎 2.1%、農村學童ニテハ夫々 37.7%、0.6%、1.9%デアツタ。

要治療兒童ノ半数以上ニ於テソノ家族及ビ近親者ニ感染源ヲ認メタ。市内學童滲出型 4 名ニ於テ數回ノ塗抹検査ニヨリ結核菌陽性デアツタコトヲ附加スル。

稿ヲ終ルニ臨ミ本事業ヲ企圖サレタル北海道廳衛生課長木村博士ニ敬意ヲ表シ協力サレタル各校校醫諸氏ニ深謝スル。

文 獻

- 1) 金井進, 清水寛, 結核. 第 15 卷, 3 號.
- 2) 有馬英二, 菊地, 松田, 結核. 第 8 卷, 2 號.
- 3) 小田俊郎, 大黒武三郎, 李樹林, 臺灣醫學會雜誌. 第 35 卷, 1 號.
- 4) Arufinsen, Ergebn. d. ges. Tbkforsch. Bd. 5.
- 5) Lucksch & Jellinek, Med. Klin. 1932. S. 684.
- 6) 高橋潤二等, 結核.

- 第 12 卷, 3 號.
- 7) 清水寛, 結核. 第 16 卷, 2 號.
- 8) Simon & Redeker, Prakt. Lehrb. d. Kinder Tbk. 1930.
- 9) Dtsch. Tbk. bl. 6. 1938.
- 10) Ulrici, Diag & Therapie d. Lungen u. Kehlkopftbk. 1933.